

コロナ禍からの脱却②

2021-08-25

Q: 現在の新型コロナウイルス（COVID-19）感染対策はボトムアップ思考ということですが、トップダウン思考で考えるとどこが違うのですか？

A: ひと言でいえば、トップダウン思考の科学であるヒューマンファクターを考慮するかどうかです。人体は30兆個以上の細胞で構成されています。細胞の染色体とミトコンドリアにはDNA（デオキシリボ核酸）という二重螺旋階段状の遺伝物質があります。同じようにCOVID-19にもRNA（リボ核酸）というDNAに似た遺伝物質があります。ここまでは医学や薬学、感染症学の専門家も解説しています。ですが、DNAやRNAを化学や生理学で考えるだけではCOVID-19の感染防止策が見えてきません。細胞のDNAとCOVID-19のRNAには情報処理（Information Processing）のためのプログラムが組み込まれていて、互いに近づけば情報交換します。ここでいう情報交換とは共存のためではなく生存のための情報戦です。COVID-19のようなウイルスは生物の細胞内でしか生存できません。人間の細胞に近づいて生存のために内部に侵入しようとします。細胞のDNAにはそれを防ぐための天賦の情報処理プログラムがあります。それが免疫力です。ですが、DNAが情報処理を誤ればCOVID-19の侵入を許してしまうことになります。それが感染です。感染を防ぐにはDNAの情報処理にエラーをさせないことです。そこで、エラー防止理論などのヒューマンファクターの手法がCOVID-19の感染防止にも役立つことになります。こう考えるのがCOVID-19の感染防止のためのトップダウン思考のアプローチです。

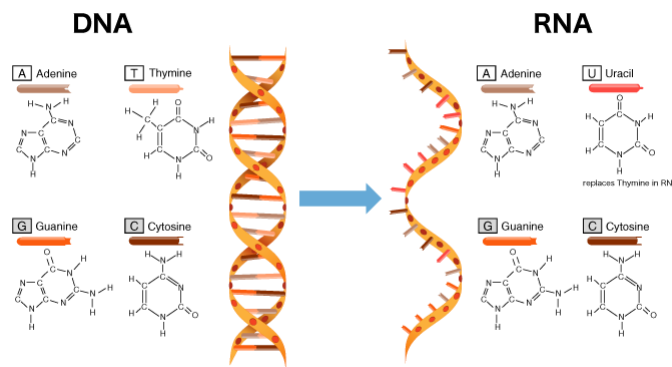


図.1 DNA と RNA

Q: 医学や薬学、感染症学の専門家も「細胞のDNAやCOVID-19のRNAには情報処理のプログラムがある」と考えているのではないですか？

A: そうかも知れません。ですが、その先の考察はできていないと思います。上述のように、COVID-19の感染は細胞のDNAの情報処理のエラーと考えられます。航空事故も近年のヒューマンファクターの研究ですべ

てが人間のエラーに起因していることがわかっています。しかも、多くは人間が意識できない潜在意識の領域で起きるエラーです。DNA の情報処理のエラーも同じです。「潜在意識のエラー」に対する対処は医学や薬学、感染症学の専門家にはできません。もちろん、航空事故の防止でも必ずしも満足にできているわけではありません。「潜在意識のエラー」に対する対処は既存の自然科学や社会科学の知識では難しいからです。ですが、COVID-19 の感染で多くの人々が死んでいる現状を考えると、この難問を避けるわけにはいきません。COVID-19 の感染を防止するにはエラー防止理論等のヒューマンファクターの手法しかないということを後述の説明で理解していただけたと思います。

Q: DNA や RNA に組み込まれている情報処理プログラムとはどのようなものですか？

A: DNA の情報処理は人間の脳と同じようなものです。図. 2 がその概念図です。実線が意識できる「顕在意識」で、点線が意識できない「潜在意識」です。30 兆個以上の細胞の DNA のすべてに情報処理プログラムが組み込まれています。DNA の情報処理が健全に行なわれていることが「細胞が生きている」ことです。DNA が情報処理できなくなった細胞は爪や髪の毛のように淘汰されます。脳細胞や心臓細胞など生存に不可欠な細胞が死滅すれば人間は死にます。DNA の情報処理が生物にとって如何に重要かわかるとと思います。一方、COVID-19 の RNA にも単純ですが同じような情報処理プログラムがあります。ですが、COVID-19 が生物かどうかはまだわかりません。RNA の特性がわからなければ、COVID-19 を駆逐することは難しいようです。

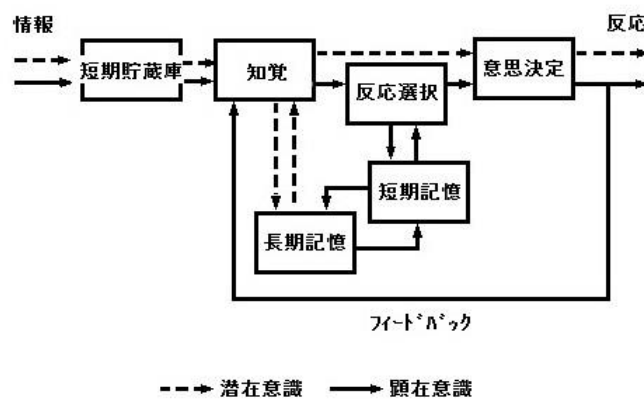


図. 2 人間の脳の情報処理

Q: 細胞に COVID-19 が侵入して感染するとどうなるのですか？

A: 細胞内に RNA を放出して分裂や転写を繰り返します。その間に細胞の DNA の情報機能を破壊して細胞を死滅させます。生命に不可欠な細胞が死滅すれば、人間が死ぬこととなります。RNA が DNA の長期記憶を変化させれば、細胞を癌化させるとか悪性の遺伝因子を残すことがあります。分裂

や転写を繰り返した RNA は再び COVID-19 の殻に戻って細胞の外に出ようとします。その間に RNA の長期記憶が変化して異なるタイプ[®]の COVID-19 に変異することもあります。

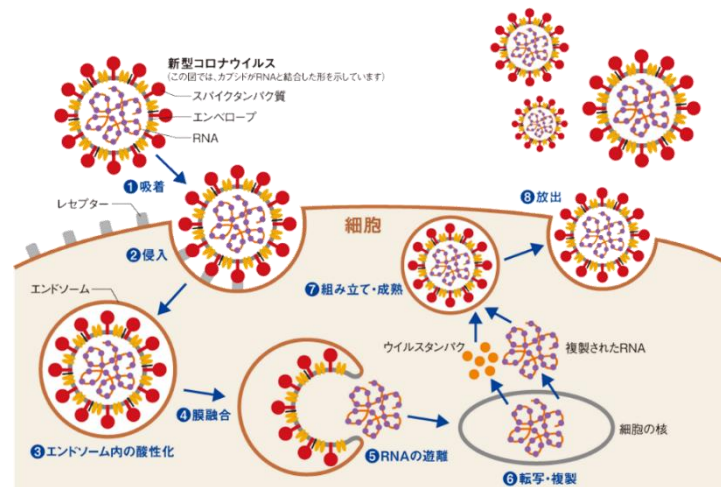


図.3 COVID-19 の感染と増殖

Q: 医学や薬学、感染症学の専門家が「DNA や RNA に情報処理プログラムがある」と理解していない根拠はあるのですか？

A: あります。「ファクター X」です。わが国の専門家は「外国にくらべてわが国や東アジア諸国の感染者が少ない」理由を「ファクター X」と曖昧にしています。自ら理解できないことを「ファクター X」と言い訳しているようにも思えます。DNA に情報処理プログラムがあることがわかれば、「ファクター X」は容易に説明できます。DNA の情報処理プログラムは永い進化の過程で形成されるもので、民族ごとに異なるのは当然のことです。個人の間でも異なります。ヒューマンファクターではこの相異を「ステレオタイプ・ホモロジー (Stereo-type Population)」と称しています。東アジア諸国の民族とそれ以外の民族の間で「ウイルスに対する免疫力」に有意差があるのは何ら不思議ではありません。

Q: DNA や RNA の情報処理を考えれば、ワクチンはどう説明できますか？

A: 中国やロシアのワクチンはわかりませんが、米国や英国が製造しているワクチンは「メッセンジャー RNA ワクチン」といわれるものです。COVID-19 の RNA の一部を切り取って、細胞の DNA に記憶させて DNA の情報処理にエラーをさせないようにするワクチンです。RNA そのものを移植すれば発症するので、害がないと思われる一部を移植します。DNA には個人差がありますので、アナフィラキシー (Anaphylaxis) などの拒否反応を起こす人もいます。メッセンジャー RNA ワクチンの原理は、例えが適切かどうかわかりませんが、母親が幼児に熱いやかの危険性を憶えさせるしぐさに似ています。母親は、幼児に熱いやかを触らせるのではなく、自ら冷たいやかんに触って火傷をした素振りをしてみせます。この方法では、幼児はやかんを警戒するようになるかも知れませんが、熱い鍋などやかん以外のものも警戒するとは限りません。

同じように、メッセージ RNA ワクチンが変異したウイルスにも有効とは限りません。それに、記憶が時間とともに薄れるようにメッセージ RNA ワクチンの効果も時間とともに低下します。従来の「生ワクチン」も COVID-19 のような新型ウイルスには効きません。結局のところ、ワクチンは COVID-19 の感染防止の根本的な解決にはならないといえます。

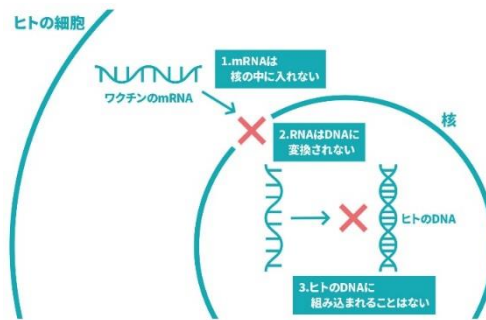


図. 4 メッセージ RNA ワクチン

- Q: わが国の若者の多くがメッセージ RNA ワクチンの接種を躊躇しているのに対して、専門家は「DNA にはまったく影響がない」と説明していますが、どうなのですか？
- A: 前述の通り、COVID-19 の RNA の一部といえども細胞の DNA の長期記憶に影響を及ぼします。子育てが終わった成人はともかく、これから結婚や出産を控える若者が DNA への影響を心配するのは当然といえます。専門家は「メッセージ RNA ワクチンの中長期的な副反応が確認されていない事実」を率直に開示して、若者に自由に選択させるべきです。
- Q: 細胞の DNA に直接働きかけて情報処理にエラーをさせないワクチンは開発できないのですか？
- A: 細胞の DNA の情報処理を人為的に変えることは俗に「遺伝子組み換え」とよばれています。植物の種子などではすでに実施されていますが、中長期的な害については不明な点もあります。「クローン」など、興味本位で動物の DNA に適用する科学者もいますが、人間への適用は倫理的に禁止されています。IPS 細胞など、再生医療の名目の試みもありますが、臨床では実証されていません。西側諸国の製薬会社は DNA を変えるワクチンの開発は考えていないようです。
- Q: 図. 2 の情報処理の概念図は科学的に実証されているのですか？
- A: 実証されていません。仮説とはいわないまでも、推論の域を出るものではありません。ですが、事故の防止やウイルスの感染防止では、図. 2 の概念図が科学的に実証されるまで待つてはられません。概念図にある「記憶 (Memory)」や「意識 (Consciousness)」も、今でも科学的に説明されていません。説明できる科学者がいればすぐにでもノーベル医学生理学賞を受賞できます。トップダウン

HuFac Solutions, Inc.

思考の科学であるヒューマンファクターはノーベル賞の受賞など目指してはいません。社会の現場で人命を救うことを究極の目標にしています。

Q: わが国の政府や感染症専門家が推進している COVID-19 の感染防止対策をどう思いますか？

A: 政府や感染症専門家は、①「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置（まんぼう）」、「三密回避措置」で国民に行動の自粛を求める、②「mRNA ワクチン」の接種を奨励する、③入院や民間施設での宿泊、自宅療養などで感染陽性者を隔離、治療する、などの対策をとっています。これらはボトムアップ思考では感染防止に効果があると思われているようですが、トップダウン思考で考えると必ずしもそうはいえないことがわかります。わかりやすくいえば、「戦略のない戦術」に過ぎません。これではコトとの過酷な戦いに勝つことはできません。

Q: ①の対策はどのようなのですか？

A: ①の対策が繰り返されれば、国民の行動が不活性化されて経済が混迷します。経済が混迷すると国民に不安感がつり、細胞の免疫力が低下します。30 兆個以上の細胞の DNA は体内の情報伝達物質を通じて情報交換しています。脳の不安感は全身の細胞の DNA の免疫力を低下させることとなります。「病は気から」という格言の通りです。

Q: ②の対策はどのようなのですか？

A: mRNA ワクチンの効果に限界があることは上述の通りです。副反応も無視できません。

Q: ③の対策はどのようなのですか？

A: COVID-19 の感染者を隔離して治療することはもちろん必要です。ですが、有効な治療薬はまだありません。酸素供給器の使用などでも医療の逼迫をまねいているようです。

Q: 結局のところ、どうすればコト禍から脱却できるのですか？

A: 方法は2つしかありません。①COVID-19 を撲滅するか、②細胞の DNA に免疫力をつけるかです。残念ながら、現状では①は不可能のようです。残りは②しかありません。期待に応えられるかわかりませんが、副反応の心配がないよい方法があります。期待外れといわれても、コト禍から脱却する方法はそれしかありません。詳しいことは次回以降に譲ることにします。

本情報に関する連絡先：

(株)ヒューファクトリョーションズ

URL: <http://www.hufac.co.jp>

E-mail: info@hufac.co.jp